

森林・林業・木材産業の現状と課題 (要約版)

令和8年10月

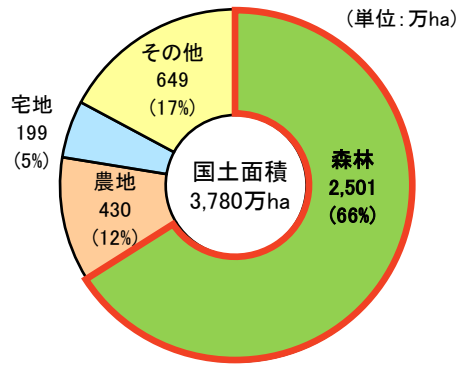
林野庁

我が国の森林と木材 ～育てる時代から循環利用の時代へ～

現 状

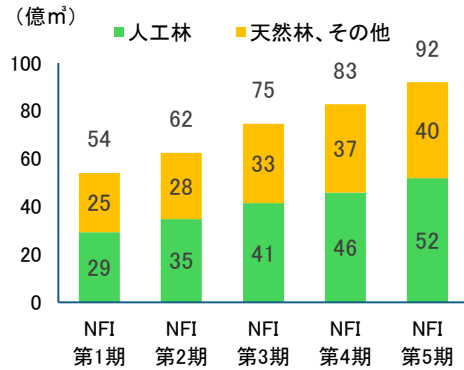
- 我が国は世界有数の森林国。国土の約 3 分の 2 が森林（森林面積：約2,500万ha、人工林面積：約1,000万ha）。面積ベースで人工林の 6 割が51年生以上で、本格的な利用期を迎えている。森林蓄積は増加傾向にあり、直近の調査結果による推計値は約92億 m^3 。
- 木材供給量については、国産材の供給量が近年増加傾向にあり、令和 6 年の木材自給率は42.5%。建築用材等の自給率においては約60年ぶりに令和 5 年に 5 割超。

□ 国土の2/3は森林



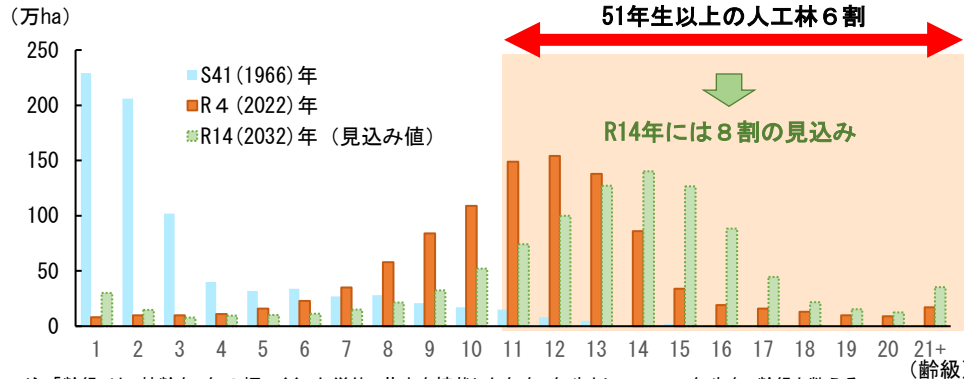
資料: 国土交通省「令和8年版土地白書」
注: 計の不一致は、四捨五入による。

□ 森林蓄積の推移



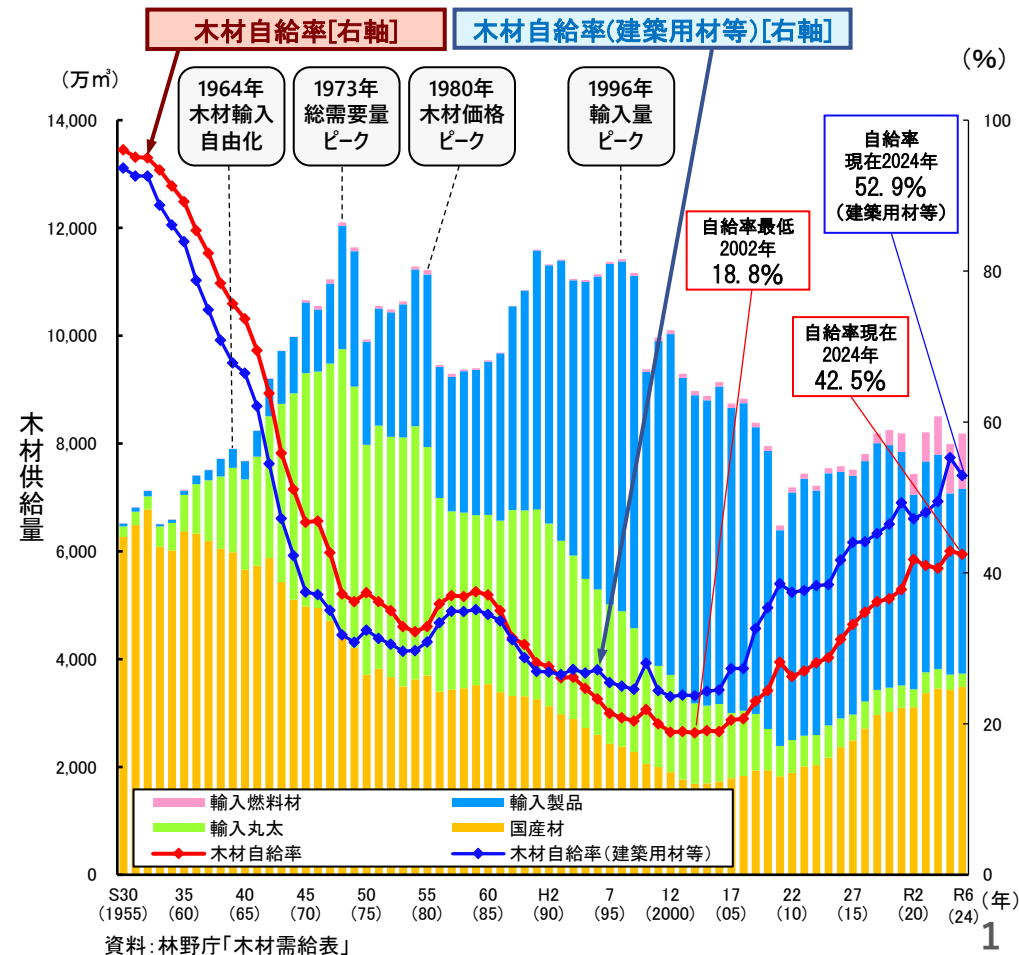
注1: 森林生態系多様性基礎調査 (NFI) の調査結果に基づく推計値
注2: NFI第1期: H11～15年度、NFI第2期: H16～20年度、NFI第3期: H21～25年度、NFI第4期: H26～30年度、NFI第5期: R1～5年度
注3: 計の不一致は、四捨五入による。

□ 利用期を迎えている人工林 – 人工林の齢級別面積 –



注: 「齢級」は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1～5年生を1齢級と数える。
資料: S41 (S41年度) 及び R4 (R4.3.31現在) は林野庁「森林資源の現況」、R14は全国森林計画に基づく見込み値。

□ 伸びる国産材生産量 – 木材供給量の推移 –



- 森林・林業基本計画では、環境に配慮した企業経営等を求める社会的気運の高まりや、気候変動等がもたらす複合的な要因による山地災害の発生等を踏まえ、「**林業・木材産業の成長の実現**」と「**国民の安全と安心の確保**」に取り組むことで、森林・林業・木材産業の好循環を生み出し、百年つづく「**森の国・木の街**」の実現を目指すこととしている。

□ 林業・木材産業の成長の実現



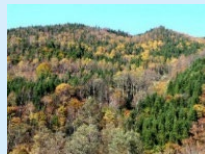
□ 国民の安全と安心の確保



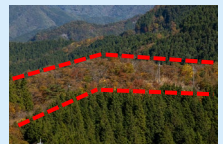
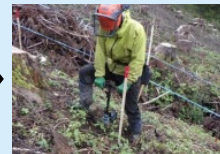
山腹崩壊等により荒廃した森林の復旧



奥山の針広混交林化



花粉の少ない森林への転換



防火林帯イメージ
(延焼しにくい多様な森林)

川下

川中

川上

木材の需要拡大・利用促進

国産材の利用拡大と幅広い需要の創出

- 非住宅・中高層建築物の木造化など、都市の木造化の多角的推進
 - ・製材等のJAS構造材の普及、CLT（直交集成板）や木質耐火部材等の開発・普及
 - ・都市（まち）の木造化推進法（R3年10月施行）
- SHK制度やLCCO2の評価等を活用した国産材利用効果の見える化
- CLT、ツーバイフォー材等の製品輸出の戦略的拡大
- 大径材、広葉樹等を活用した内装材等の需要創出
- 木質系新素材の開発・実装
- 木育の推進



木造11階建て
研修施設
(2022年竣工)
木質耐火部材



CLT



改質リグニンの用途として期待される電子基板

国産材の安定供給

需要に応じた国産材の競争力強化

- 木材加工流通施設の生産力強化、工場間連携、ストック機能の強化
- JAS製材設備、大径材対応設備等の戦略的整備
- 地場の中小工場等による高付加価値製品の持続的供給確保



加工工程の自動化・省力化



保管庫
(ストック機能の強化)

ゾーニングと集積・集約化の加速、持続的な林業の確立等

- ゾーニング等による林業適地での確実な再造林
- 林業適地における路網整備等への支援の重点化
- 境界明確化や情報の透明化等に向けリモセン、AIの活用
- 森林の集積・集約化（改正森林経営管理法の最大限の活用）（R8年4月改正法施行）
- スマート林業技術の開発・実装
- 従事者の所得向上のためのキャリアに応じた昇給の実現等
- 労働安全対策の強化に向けた関係者の意識改革の徹底等
- 多様な主体の育成・確保
- 森林の総合的利用や「ワークレット」を山村所得等につなげる「森業」の推進

国有林の活用による安定供給

- 需給状況の的確な把握と地域の市況等を考慮した国有林材の機動的な供給

強靱な国産材サプライチェーンの構築、合法伐採木材の流通促進

- 再造林コストや、森林・木材の持続性に関する情報の共有・相互理解
- ICTの活用等による原木流通コーディネート機能の強化
- 合理的な価格形成が図られる国産材主導のサプライチェーンを構築
- クリーンウッド法による合法伐採木材の流通及び利用の促進

国民の安全・安心を根底から支える多様で健全な森林づくり

- 国土強靱化に向け、山地災害危険地区の再点検等を踏まえた森林整備・治山対策の強化等
- 延焼しにくい多様な森林への誘導、林野火災予防に係る広報・啓発の強化
- ドローンによるシカ等生息状況調査や、松くい虫防除のための効率的な薬剤散布等による病虫害・鳥獣害対策
- クマ被害対策パッケージに基づく奥山の針広混交林化や里山林整備など生息環境の保全・整備等
- 花粉の少ない森林への転換
- 原生的な天然林等は引き続き適切に保護管理

防火林帯イメージ
➡（延焼しにくい多様な森林）

